

府中明郷学園学校運営協議会

「たくましく生き抜く児童生徒の育成」—自立、自律、地立—

「地域の中に学校を！学校の中に地域を！」

1 コミュニティ・スクールの取組みを通して育てたい子供像

府中明郷学園は、2中4小学校の統廃合を経て、平成22年度から施設一体型校舎で小中一貫教育を実施している。また、平成26年4月から学校と地域の関係を相互補完的に連携・協働し、共有した目標に向かって対等な立場の下で協働関係を築くため、コミュニティ・スクールを導入した。さらに、平成29年4月からは義務教育学校となり、子供の実態に寄り添いながら、地元の企業をはじめ、長い年月の中で掘り起こされ構築されてきた地域文化を学習対象にし、府中市の未来を教育課程に描くため、教育課程の特例を生かした取組みを始めている。

これまでの間、右記のように、学校運営協議会の実践方針を掲げ、直面する諸課題に取り組んできたが、基本理念・キャッチコピーは創設当時から貫かれており、上記主題・副題に示した通りである。

この取組みを通して育てたい子供像は、基本理念の主題・副題に示されている「たくましく生き抜く児童生徒の育成」「三つのじりつ—自立、自律、地立—」であり、その意義や価値を下に示す。

自立：自分自身で考え、自分の意志に従って正しい行動や判断をする
自律：自らの価値観を持ち、仲間と協力し目標を達成する
地立：地域を誇りとして持ち、伝統文化を継承する

平成24年度	「知る」
平成25年度	「準備」
平成26年度 (コミュニティ・スクール設置)	「組織」
平成27年度	「発展」
平成28年度	「協働」
平成29年度	「革新」

【実践方針】

本学園学校運営協議会は、これら基本理念に基づき、学園経営方針との整合性を保ちつつ、地域で協働体制を構築してきた。

2 学校の特色を生かした取組み

構築した協働体制は、学校運営協議会キャッチコピー「地域の中に学校を！学校の中に地域を！」と府中明郷学園経営理念のキャッチコピー「義務教育学校とコミュニティ・スクールで創る地域と共にある学校」のもと、「革新」から「創造」へと昇華している。

平成29年度、地域再発見を目的とし、学校運営協議会企画運営委員会のメンバーと児童・生徒が熟議を行い、そのことを踏まえ、各町内会長と児童・生徒及び教職員が、町内会ごとに、平成30年度・地域行事への参画について検討した。

本年度、義務教育学校の特色を生かした取組みを次に示す。

- ①地域貢献活動（前述の通り）
- ②寺子屋活動（クルトピア明郷、久佐公民館、協和公民館にて、後期課程生徒や地域の方々が前期課程児童に、また、後期課程生徒には卒業生が先生役となって、長期休暇中に実施）
- ③各教科・領域における授業や明郷タイム（5～9年生の縦割りクラブ活動）のゲストティーチャー招聘（総合的な学習の時間を中心に）
- ④平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」（文部科学省指定）
特に④について、今年度から文部科学省から調査・研究事業として指定を受け、地域との協働体制に基づく社会に開かれた教育課程の実現・充実・発展から、将来地域づくりの担い手、すなわ

ち地域を支える若者を地域総がかりで育てていくことにつなげることをねらいとし実践研究に取り組んでいる。この実践研究の全体構想を次に示す。



また、これまでの実施状況の概要を、次に示す。現在まで、学校運営協議会が学校と地域・地元企業との橋渡し役を担い、第7学年生徒が、模擬会社を設立し、商品開発に向けて取り組んでいる。

実施月日	取扱いの時間	実施概要
5/23	地元起業への説明会	「府中明郷アントレプレナーシップ開発カリキュラム」について、地元起業家への説明会（府中商工会議所も出席）
5/31	総合的な学習の時間	学校運営協議会会長による企業経営理念説明及び模擬会社経営理念考察
6/11	総合的な学習の時間	7年生模擬会社名の考案・決定（学校運営協議会会長も見学）（5月下旬～取組）
6/14	第1回「研究協議会」に向けた準備委員会	「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」の説明と今後の計画
7/3	総合的な学習の時間	会社設立式（地元起業家も来賓出席）及び記念講演（学校運営協議会会長）、経営理念・方針
7/3	第1回「研究協議会」	京都産業大学・西川教授から評価システム構築とPDCAサイクルの重要性を示唆
8/20	総合的な学習の時間	企業研修（職場体験学習）の実施（～8月24日）

8/30	第1回「検討委員会」	開発センター・原田理事長から「キャリア形成におけるアントレプレナーシップの重要性」と題し講演され、社会システムそのものにイノベーションが求められる背景と教育界の現状、北欧及び日本国内の教育実践事例等を紹介された。
9/20	総合的な学習の時間	小谷委員による広報活動に関する講演
9/28	総合的な学習の時間	小谷委員による職場体験事業所及び模擬会社の経営理念が伝わるCMづくり指導

3 今後の方向性

前項④の取組みについて、生徒アンケート調査（10月実施）結果の質問項目から、特に肯定的評価の高かった項目と低かった項目を、表に示す。

高い	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの良いところや違いを認め、意見や考え方が違って友達と協力できている。 ・より良い方法を考えるために、人の意見を聞いたり、本で調べたりして必要な情報を集めている。
低い	<ul style="list-style-type: none"> ・良い結果を出すために、必要に応じてみんなを引っ張るリーダーになったり、またリーダーを支えるサポーターになったりしている。 ・問題がある時に、複数ある方法の中から良いと思う解決方法を選択している。

上表から成果と課題を読み取るとすれば、肯定的評価の高かった質問項目からは、「協働性」や「情報収集力」の高まりが、低かった項目からは「リーダーシップ」や「判断力」が十分育まれていない点がうかがえる。

これらのことを踏まえ、今後、評価活動（価値付け）に取り組みながら、実践研究の改善・更新につなげていく。具体的な活動として、次のことに取り組む予定である。

- ア 組織体制の在り方やその実践活動の在り方から児童生徒・保護者・学校・地域への効果・影響を検証すること。
- イ 7年生の職場体験学習受入事業所からのアンケート調査結果を精査し、評価すること。
- ウ 3年生～9年生の総合的な学習の時間を整理し、他の教科等との関連について、教育課程の見直しと再編成を行うこと。

府中明郷学園学校運営協議会は、「社会に開かれた教育課程」を活かし、より良い「ものづくり」「まちづくり」「ひとづくり」の実践につなげる。